

## ドレイピア第一書簡の修辞法

"A Letter to the Shop-Keeper, Tradesmen, Farmers and Common-People of Ireland,  
Concerning the Brass Half-Pence Coined by Mr. Woods" by M. B. Drapier

小島 弘一

## 要 約

本論は、アイルランドに於ける小額貨幣の不足を解決する為、イングランド国王の認可の基、鑄造商人ウイリアム・ウッドが108,000ポンドに及ぶ半エンス貨鑄造に乗り出した。この高額な鑄造貨幣の流通が、アイルランド経済を破綻の淵に沈める事を危惧したシフトは、架空の人物、M・B・ドラピアの名の下に、このウッド貨鑄造阻止の国民的キャンペーンを張った。利害に敏感な商人たちを対象として、このウッド貨受領が及ぼす不利益を説き、様々な修辞法を駆使して、国民的合意を達成したその第一便である。シフトは本論に於いて、従来の論法と異なり、淡々と事実のみを語ることで、利害の反する商人たちを合意に導いた。

キーワード：暗示的看過法，上昇的漸層法，明示的列挙法，ドラピア，ウッド

## はじめに

ジョンナサン・スイフト (Johnathan Swift, 1667～1745) は、ウッド (William. Wood, 671～1730) による少額貨幣の鑄造と、その流通がアイルランド国家財政に与える壊滅的な影響からアイルランドを救うため、国民の総力を挙げて、その鑄造計画を阻止すべく、架空の人物、M. B. Drapier氏の名前による投書でキャンペーンを展開した。何事に於いても個人の利得に無関係な事態に関しては、団結して行動しないアイルランドの国民性を熟知している彼は、国家的危難を、個人の問題に置き換え、経済的損失の個人に及ぶ危険性から論を推し進め、国民の総意を結集しようと試みた。

1720年の“アイルランド産品汎用の提案”も無視された経験から、架空の布地商D. B. ドレイピア氏からの書簡の体裁をとり、様々なレトリックを駆使して、国民全般に対して、問題意識を覚醒させ、よって来る経済的損失が個人に及ぶ道筋を明確にして、国民の総意の結集を試みた。

表面的には、ウッド貨鑄造計画の破棄を目指す体裁をとっているが、その底辺にはイギリス政府のアイルランドに対する不当な植民地政策に対する炎の怒りと、抗議の思いが秘められていた。本論考では、その

多彩な文彩について検証を進めたい。

## 修辞の展開

『ドレイピア書簡』はスイフトお得意の論法、即ち、ひたすら心情を繰り返して訴え、彼の主張を押し付けようとする手法を放棄して、知りうる事実を伝え、周知させ、判断を読者に委ねる体裁を取りながら、其れでいて嫌でも反発したくなるように、巧みに民心を操作する意図の元、様々な修辞法を駆使して論を進めている。その本論に於ける修辞の中核をなすものは、暗示的看過法<sup>2)</sup>である。

さりげなく触れる事で、反って印象付け、その上、類例を列挙する事で、筆者の知見を誇示する意図も含まれている。冒頭彼は、本論は読者自身、その子弟たちの衣、食、そして日常生活の安泰に関する問題であると、対象を“Men”“Christians”“Parents”“Lover of your Country”<sup>3)</sup>と漸層的に拡大し、読者に己自身がその対象の一員である事を暗示させている。その意図は、読者の利益の為だけである事を明確に述べ、忠告が誰のためであるか、誰が敵で、誰が味方か判断させようとしている。

neither do you know or enquire, or care who are your  
Friends, or who are your Enemies. Drapier; p. 3

この暗示的看過法の特徴は、さりげなく触れながら、強く印象付ける事にあり、言は無かった言葉で、暗黙のうちに読者の想像力に訴えているのである。言い難い事柄を述べる際に効果的である。この好例として、シェクスピアの“ジュリアス・シーザー”の第三幕第二場をあげることが出来よう。ここでしばしシェクスピアの暗示的看過法の論証を試みてみよう。

ローマ元老院でシーザーを暗殺したブルータス<sup>4)</sup> 弁明の論、“シーザーを暗殺したのはシーザーを愛さなかったゆえではなく、よりローマを愛していたからであり、ローマ市民は独裁者の下に、奴隷として生きるのか？”

If then that friend demand why Brutus rose against Caesar, this is my answer: not that I loved Rome more. Had you rather Caesar were living, and die all slaves, then that Caesar were dead, to live all free men?<sup>5)</sup>

この反語法による暗示的問いかけに、シーザーがローマ皇帝になる野望を持っていた事が暗示され、激昂しているローマ市民を前にして、マーク・アントニウス<sup>6)</sup> はシーザー賞賛の言辞を述べたいのだが、身に及ぶ危険から、述べる事が出来ない。シーザーに友情と恩義を感じているアントニウスとしては、この場の雰囲気から、言わないといいながら、ぜひ言いたい事を、このレトリックを用いて論じたのである。

74行より、“友よ”、“ローマ市民よ”、“同胞たちよ”、“Friends”、“Romans”、“countrymen”と漸層的に段階的に対象を強め、気高きブルータスが、“シーザーには野心があった”、と言った、とブルータスの行為を気高き行為と認めた上で、“シーザーは潜主だった”、“ローマは彼を排除した”と激昂しているローマ市民の鎮静化を図った。

この一言で大衆はアントニウスの演説に耳を傾ける気持ちになった。野心家はその報いを受けたと暗示した上で、“気高きブルータスはシーザーには野心があった”、“The noble Brutus Hath told you Caesar was ambitious”<sup>7)</sup>と再度繰り返した。

そのシーザーが貧者のために涙し、戦功の報奨で市民を豊かにした、と訴える事で市民の心中に僅かな疑惑を生じさせた。野心家がそのような事をするのであろうかと疑念を投げかけた上で、再度、“シーザーには野心があった”、と繰り返した。更に、2月15日のルペルカーリアの祭典に於いて‘三度王冠を捧げたが、シーザーはそれを三度拒絶した’その事を気高きブル

ータスは、“シーザーには野心があった”といっているのではないかと重ねて疑念を投げかけ、気高きブルータスの行為が、果たして気高いのかとの疑念を植えつけた。その上で再び、“シーザーには野心があった”と気高きブルータスが言った。と繰り返した。

アントニウスが事実のみを語っている事は、昔の事を思い出してもらえば分かれると告げ、アントニウスの全発言が事実に基づいている事をローマ市民は信じた。

かくしてローマ市民は、シーザーには野心が無く、シーザーの暗殺が誤った行為であり、ブルータスは気高い資質の持ち主ではなく、糾弾されなくてはならないのは彼等であった事に気付いた。もしアントニウスがシーザー追悼の演説をこの場で行っていたならば、彼は市民によって虐殺されていたかもしれないのであったが、言わないと言いながら、暗示的に、さりげなく触れる事で、より印象的に訴えたのである。

スイフトもこのドレイピア第一書簡において同様の効果を狙って、この暗示的看過法の修辞法を用いてアイルランド国民をウッド貨製造阻止へと意見の集約を図ったのである。

まずは本論に於いては事実関係のみを伝えている事を確認させ

I will therefore fit tell you the Story of the Fact; and then I will ly before you, how you ought to act in common Prudence, and according to the Law of your Country.

Drapier; p; 4

次いで、国法に準じた行動をとり、用心深くあれと、忠告を与えた上で、誰が味方で、誰が敵かの、判断に誤りのなきよう忠告している。

neither do you know or enquire, or care who are your friends or who are your Enemies. Drapier; p: 3

簡潔な表現で、国民の安寧を祈願するものである事を暗示し、まずは発端となる人物像の描写をブルータスの弁明の響に倣って、Mr. Woodと称する平凡な男、‘mean ordinary man’と言いながら、その行為が悪質を意味する“mean”なる用語の二重の意味を利用して暗示している。しかも、その平凡で、ありきたりの男が、王国国璽の基で、108,000ポンドにも及ぶ小額貨幣製造の許可を得た事、長年に渉り、アイルランドに於いて少額貨幣が不足し、その製造を請願するも認められなかった事実、その請願がアイルランドの

大地主や貴族であったにも拘らず許されなかった理由として、アイルランドはイギリスより遠く、ウッド氏には多くの友人が宮廷におり、その友人達が、国王に公正な判断を求める話、“Fair Story”をした故に、彼にのみ許可が認められたと、ここでも語句の持つ二重構造的性、即ち、‘Fair Story’、が持つ二つの異なった概念“お伽噺”と“公正な話”で暗示している。

スイフトは国民の行動規範を、国法に則ったものでなければならぬ、‘according to the Laws of your Country’ と、全ては遵法であり、この特許が誰でもが得られるものでもない ‘Which Patent however did not oblige any one here to take them’ と、特別な恩寵の存在を暗示している。しかもこのウッド貨を、換喩を用いてその品質を貶め、その劣悪な品質と、それを受領した際に発生する損失を暗示しているが、‘many Counterfeit passed about under the Name of Raps’ この“Raps”私鑄貨を“Counterfeit”まがい物と、両者の間の有縁性、隣接性を用いて観念的な価値判断でその劣悪性を表現しようとの意図が見られ、更に、“Base metal” “Base Money” と評価表現を下降させ、果ては“Cursed coin” “Trash” ‘のろわれた硬貨’ ‘屑’にまで貶め、如何にその硬貨の受領が損失を招くか明示的列挙法<sup>9)</sup>で暗示している。

次いでその品質に及び、通常の硬貨を鑄潰した場合に発生する損失を ‘you would not lose much above a Penny in a Shilling’、1シリングあたり1ペニー程度の損害だが、ウッド貨の場合は1シリングで良貨1ペンスの価値も無いと ‘the Brazier would hardly give you above a Penny of good Money for a Shilling of his’ 誇張した表現による対句の応酬で、その品質の劣悪さを暗示し、誇張して列挙する挙例法の手法は段階的に、その損害の莫大となる事を強調する上昇的漸層法<sup>9)</sup>で国民をウッド貨鑄造阻止へと誘導している。

this sum of 108,000 L, in good Gold and Silver, must be given for Trash that will not be worth above Eight or Nine Thousand Pound real Value. Drapier, p; 4

金、銀貨108,000ポンドは8~9,000ポンドの価値しかなく、ウッド貨流通を阻止し無ければ大半を屑籠に捨て去るようなものと強調し、更に、今回阻止したとしても、同額を再鑄造するであろう、とその表現はシェクスピアと比較するに簡潔性に於いて大いに劣っているが、これはスイフトの粘液質な性格と、無知蒙昧なアイルランド国民を説得するには仕方が無いものと考

える。

ウッド貨で我が国の商品を購入されたならば、12分の1の価格で購入する事になるので、その損害は計り知れないと、ウッド貨の品質の論議から、対象をずらす婉曲法を用いて問題を商品購入に際しての損害に移行させ、帽子購入の例で、損害の莫大な事を知らしめた。

5シリングの帽子12個を販売したとすると、帽子屋は3ポンド受け取るが、支払いがウッド貨であるので実質5シリングしか受け取れず、55シリングの損害が発生する事になる商取引の実例から損害を理解させている。

If a Hatter sells a Dozen of Hats for Five Shillings a-piece, which amounts to Three Pounds, and receives the payment in Mr. Wood's Coin, he really receives Only the Value of Five Shillings. Drapier, p; 4

何故にウッドがそのような利益の得られる鑄造の許可を得る事が出来たのであろうか? 疑問を投げかける事で、彼の政治工作を暗示し、その利益が誰に分配されるかを想像させ、国王もウッドの請願に騙されたのであろうし、そのような事は王国に於いてはしばしば見られる事と、皮肉交じりに伝え、ウッドの思惑通りに事が進めば、アイルランドは滅びるし、それこそが彼の忠誠心の印とも成ろうと諷刺している。

which hath given such great Proofs of its Lyality, Drapier, p; 5

請願がウッドにのみ認められたのであるから、アイルランドの全議員よりも、議会に知人友人の多い彼の方がより優れた人物でもあるとも諷刺している。

As if he were a better Man than whole Parliament put together. Drapier, p; 5

これ等のウッドに関する諷刺は、ウッド貨の品質の粗悪さの原因を読者に暗示する為で、やがてウッド貨が陸揚げされ、100ポンドが70~80ポンドの銀貨と交換され始めた実情から、その受領阻止運動が急務となった。新通貨の品質から論を起し、商品売買で発生する損失にまで及んだが、その受領拒否がままならぬ情勢、即ち、政府による兵士の給与支払いに及ぶに至って、対抗策の様々な事例を列挙する事で、発行阻止以外手段が残されていない事を誇張法で表現して、民

意を誘導しようとした。

兵士達は、‘take the Goods by Force’，権力で商品を奪い取るか、脅すか、‘swagger and, hector’，乱暴狼藉をするか、‘threaten to beat’と、縁語を列挙して表現にふくらみと陰影を深くし、国家権力には抵抗できないから、唯一の対抗手段として、酒屋は10倍の価格で販売せざるを得ないのだ、と対抗手段を暗示している。

any other Tradesman has no more to do, than to demand ten times the Price of his Goods Drapier, p6

この列挙法の連鎖は、酒屋から醸造業者へ、その原材料の大麦を栽培する農家から地主へと廻り、地代の支払いにまで及び、大地主が屑となる貨幣を受け取る筈が無いと、損害がイギリスにまで及ぶ事を暗喩している。

They are bound by their Leases to pay their Rents in Good and Lawful Money of England, and the Squire their Landlord will never be so bewitched to take such Trash for his Land: Drapier, p; 6

このウッド貨の品質の劣悪さを、貨幣価値からその重量にカテゴリーを、婉曲法を用いて移してその劣悪さを強調した。

The common Weight of these Half-Pence is between four and five to an Ounce; suppose five, then three Shillings and four Pence will weigh a Pound, and consequently Twenty Shillings will weigh Six Pounds Butter Weigh. Drapier, p; 6

更にこの貨幣の運輸方法に及び、この重量の半ペンズで農民が半年分の借地料を支払うとすれば、100ポンドの地代は600ポンドの重量となり、その運搬には3頭の馬匹が必要となる。又地主が一冬の必需品を購入に商店を訪れるには6~7馬匹分、麦袋に入れて積んだ馬車を引き連れてこなくてはならない、とその不便さを強調した。しかもそのような価値の無い貨幣を受け取る側の思いやりが求められよう。と皮肉まで伝えている。

We shall have the Grace to take it for no more than it is worth. Drapier, p; 7

この婉曲法の連鎖は更に拡大し、大地主コノリー氏の事例に及ぶ。年収入16,000ポンドに及ぶ地代、その半年分を移送するためには250頭の馬匹が必要で、貯蔵するには2~3棟の巨大な倉庫が必要になる。とその貯蔵法に論を転じ、銀行家の例で、日常払い出し資金として4万ポンド必要な場合、これを全てウッド貨で用意するには1,200頭の馬匹必要であると、その不便さを誇張した表現で伝えた。しかし、現実にはかかる仕儀に至る事はあり得ないが、誇張して言及する事で、国民の認識を深める意図がある。この解決策としてドラピァは近隣の商店の協力を得て、物々交換による取引と、わずかな金、銀貨に頼るといって、その金銀貨を、‘heart's blood’，‘命とも言うべき大切なもの’として、その対極にあるウッド貨を‘がらくた’‘Lumber’と称して、国民から大切な金銀貨を取り上げ、ガラクタしか与えぬ行為を‘吸血鬼’‘Blood-sucker’，の仕業として、糾弾した。この一連の論及は、通貨の基準は金銀貨以外に無い事を論証するための伏線となっているのである。その為さらに、ウッド貨の品質の粗悪さを証明する為、ウッド貨20ポンドを21シリングで売却する愚か者がいるのであろうか？もしいるならば、それでパンを買うとまで皮肉った。

Who could buy Ten Pound of it with a Guinea, and I hope to get as much for a Pistole, and so purchase Bread from those who will be such Fools as to sell it me.

Drapier, p; 7

かかる劣悪な半ペニー貨が一度流通し始めれば、資材が粗悪なだけに偽者が溢れるであろう、さすれば、利に聡い‘Dutch’‘オランダ人’等はすぐに模倣するであろうと、換語を用いて、事態の容易ならざる事を訴え、それら偽貨幣が国内に流通し、ウッド氏も鑄造を継続し、我々が商品代金の支払いに使用するならば、我々の損害は54万ポンドにも達するであろう。元来わが国の流通資金は40万ポンドに過ぎないのであるから、これ等吸血鬼どもは、その資金全てを吸い尽くすまで中止しないであろう。そのような事態に陥ったならば、地主は借地人に、借地人は賃借料がイギリス正貨で支払う事が出来ぬので、農民に身を落とし、従前にも行われていた事であるが、農民が家畜を飼い、自身が商人を兼ね、海外にその製品を、‘Butter’‘Hides’‘Wool’‘Linnen’を輸出し、外貨を稼ぎ、‘Wine’‘Spices’‘Silk’を輸入するようになる。これ

等の農民は、わずかな小作人を擁してはいるが、やがて彼らも盗人になるか、乞食になるか、逃散するようになる。と、下降的漸層法で列挙、更にこの手法で、商店主たちはこの俄か商人の出現で、倒産に追いやられるか、飢え死にする。何故なら、商人達はこの土地生え抜きの人々であるから、彼らがいなくなれば、必然的に、職人達や、商人の仕事がなくなるからである。とやがて被害が自身にまで及ぶという暗喩も含まれている。

The Shopkeepers in this and every other Town, must Break and Starve: For it is the Landed-men that maintains the Merchant, and Shop-keeper, and Handcrafts-Man. Drapier, p; 8

かくして、地主は農民や商人になり、輸出によって得た資金で洋服屋や織物工を細々と養い、溜め込んだ資金は全てイングランドに送られてしまう。我々がこの呪われた硬貨 ‘cursed coin’ を受領するようになれば、アイルランド全部の富と、ウッドの財産を秤に架けたならば、彼の富のほうが遥かに多いと判明するだろう。そのみならず、イギリスは毎年100万ポンド以上手に入れる事になる。と列強の諸国の追従を許さぬほどの利益が得られる事を引喩<sup>10)</sup>で仄めかしている。

If all Ireland should be put into One Scale, and this sorry Wood into the other: That Mr. Wood gets above a Million of good Money every Year clear into their Pockets: And that is more than the English do by all the world beside. Drapier, P; 8

このように悲観的な事例を列挙して、国民に現状打破の対策の尽きたように誘導し、ウッド貨の流通阻止の必要性を強く印象付け、一縷の望みを覗かせた。文初で簡単に触れただけの一文が、その勢いを増して国民の胸裏に迫ってきた。これは丁度 ‘ブルータスは気高い’、 “Brutus is an honourable man”<sup>11)</sup> という一文が市民の胸に疑念を起こしたと同様な効果をもたらし、ウッド貨受領拒否の可能性を期待させるものである。

His Majesty's Patent doth not oblige you to take this Money. Drapier, p; 8

国王勅許のこの新鑄造貨の受領に関しては、何人も強制されない。という事である。国法が王権に国民

に、この貨幣の受領を強制する事を認めていないのである。もしその様な事を認めていたとすれば、‘石’や、‘貝’や、‘印刷した皮’、‘Pebble-stones’、‘Cockle-shells’、‘stamped Leather’、も通貨となり得る、と類似品を列挙し、その様な権限を国王に与えたならば、1ギニーを10ポンドに ‘Guinea pass for Ten Pounds’ 1シリングを20シリング、‘a Shilling for Twenty Shillings’ として通用させ、王国の全財貨を己が手中にすることも可能であり、我々に残されるのは銅貨と皮貨だけとなると危機感を煽っている。

by which he would in a short Time get all the Silver and Gold of the Kingdom into his own Hands, and leave us nothing but Brass or Leather, or what he pleased. Drapier, p; 8

ここにおいて、従前より繰り返し論及してきたウッド貨の貨幣としての資質が活性化し、品質の劣悪な卑金属の、この忌まわしいウッド ‘abominable Project of Mr. Wood’ の鑄造計画は、通貨の平価を低くしておきながら、より高価な硬貨を鑄造して国民から財貨を奪うフランス封建政体のやり方と同じであるが、フランスでは ‘銀貨には銀貨’ を ‘silver for Silver’、‘金貨には金貨’、‘Gold for Gold’ であるが、ウッドは我々の金、銀貨全てを奪い去る計画である。と重ねてその品質の劣悪性を誇張し、

this Fellow will not so much as give us good Brass or Copper for our Gold and Silver. Drapier, p; 8

その上で、引用法<sup>12)</sup>を用いて説得を図ろうとして、過去の貨幣に関する法令を列挙した。

此処で古来より参照されている律法書 “the Mirror of Justice”<sup>13)</sup> を持ち出し、古来よりの習慣法の権威に委託して、金、銀貨以外の通貨の改鑄に当たっては、全国民の同意が必要である事、更に著名な法律学者コーク卿<sup>14)</sup>も議会の承認がとりわけ必要であるとの見解まで付記して、ウッドの鑄造貨がその資格を欠いている事を引用法を用いて証明した。

It was ordained that no King of this Realm should Change, or Impair the Money, or make any other Money than of Gold or Silver without the Assent of all Counties, that is, as my Lord Coke says, “without of Assent of Parliament.” Drapier, P; 9

さらにこの引用法は漸層的列挙が続き，“アイルランドにおいては，通貨は，金銀貨を‘Lawful’，正貨，もしくは真貨，‘true Metal’，の位置に置き，卑金属製の硬貨は全て非合法通貨，‘unlawful’として偽貨，‘false Metal’の地位に貶めている。”とのコーク卿の言葉に添えて，イギリスに於いては，エドワード一世の統治20年議会立法に於いて，支払いに当たっては正貨以外の使用を禁止する事が明文化されているとも報じて，ウッド貨対策の要，受け取り拒否による対抗策の正当性を暗示している．これを補強するため，ペンス流通に際しての法律の規定まで持ち出し，正貨での取引においては，これを拒絶出来ない旨を併記した．

Whoever in Buying or Selling presumeth to refuse an Half-penny or Farthing of Lawful Money, bearing the Stamp which it ought to have, let him in seized on as a Contemner of the King's Majesty, and cast into Prison.

Drapier, p; 9

金，銀貨であれば，何人もこの授受に反対しなかったため，入牢を命じられたものが皆無であった事実から，コーク卿は正貨以外の通貨の受領は拒否できると，法令を参照して述べて，金，銀貨で無いウッド貨の受領拒否の危険性の皆無な事も暗示した．

No Subject can be forced to take in Buying or Selling or other Payments, any Money made but of Lawful Metal; that is, of Silver or Gold.

Drapier, p; 9

更に，ヘンリー四世の議会立法4章まで持ち出し，古来より少額貨幣といえども銀貨であった事，通貨は全て金，銀貨でなくてはならない，これは金銀鉱山のみが国王大権の及ぶ存在であるからだ．と付け加え，小額通貨の欠乏の折にあっても，銀貨の少額貨幣の製造は，全流通貨幣の3分の一を越えてはならぬ事が明示されており，それに引き換え，ウッド貨の製造額が国家財政に如何に影響を及ぼすか，ひいては国民生活に及ぼす危険の大なることを暗示し，古来より少額貨幣といえども銀貨であることを証明している．

For the great Scarcity that is at present within the Realm of England of Half-pence and Farthings of Silver ; it is ordained and established, that the Third Part of all the Money of Silver Plate which shall be brought

to the Bullion, shall be made in Half-pence and Farthings.

Drapier, P: 10

更に又，エドワード二世の統治9年の立法3章で，正貨で無い通貨の流通を禁止している事も明示し，

That no sterling half-pence or Farthing be Molten for to make Vessels, or any other thing by the Gold-smiths, nor others, upon Forfeiture of the Money somlten.

Drapier, p; 10

同王統治11年の立法5章まで持ち出し，基準に満たない半ペンスを，‘Black money’基準外貨幣として流通を禁止した例まで挙げた．これ等は全て金，銀貨で無い少額貨幣の流通が禁止された例であるが，その上で唯一の例外事項として，ティローン州<sup>15)</sup>の反乱の折，エリザベス一世女王が軍隊の給与として卑金属の混合通貨を製造し，王国の枢密院がイングランドの商人にこの通貨による取引を命じた事を報告している，ディービス<sup>16)</sup>の例を挙げた．然し多くの法律家たちはこのことを違法として糾弾したが，アイルランドの枢密院にはウッド貨に対して，そのような権限を行使する力も無いのであるから，国民の総意で事に当たらなくてはならない事もまた暗示している．しかしこのエリザベス女王の場合は，スペインとの戦争最中の反乱の際の緊急避難であるから，現在のわが国のごとく，平和で静謐な時代に適応すべき事例ではない．このように多くの例を挙げ，引用によって発言に重みと品位奥行きを与えて民意を誘導して，ウッドの製造許可を廃止に持ち込もうとした．

## むすび

スイフトの狙いは，ウッドの製造計画の阻止が叶わなかった折には，ウッド貨の授受を禁止する事で，その流通を止め，実質的な効果を狙っていたものと考えられる．その為，彼は通貨としての基準や，量目不足を上げ，加えて国王による製造貨ではなく，認可を得たとはいえ，私鑄貨の上，金，銀貨で無い貨幣は通貨としての資格に欠けるとの理由から，その授受を拒否できる事を強調した．

You are obliged to take all Money in Payments, which is coined by the King, and is of the English Standard or Weight; provided it be of Gold or Silver. Drapier, p; 11

そして、金、銀貨で無い半ペンスや小銭は、たとえイングランドであれ、いずれの国のものであれ、その授受は強制されないし、銀貨の半ペンスや小銭の鑄造は長らく忘れ去られていたので、その存在自体知る者もいなくなっているのです、これ等の粗悪な銅貨の授受は利便性の為だけである。

You are not obliged to take any Money which is not of Gold or Silver; not only the Half-pence or Farthings of England, but of any other Country. Drapier, P:11

その上で、このウッズの半ペンスを‘価値の無い’‘Vile’ と貶め、価値が12分の1しかないのであるから、これに対して誰も彼もが力を合せて立ち向かえ。この薄汚れた屑‘Filthy Trash’を拒絶せよ。と金、銀貨でないウッズ貨を貶める表現で、国民に繰り返し暗示した。

通貨としての有用性の無い事の繰り返しは、漸層法で列挙、強められ、繰り返され、やがては、商人として、ウッズ貨をやむなく受領しなくてはならぬ場合、その商品価格を12倍にしないと破産するとの暗喩を含めて警告した。

The Shop-keeper will advance his Goods accordingly , or else he must break and leave the Key under the Door.

Drapier, P:11

そして、追い討ちをかけるように、ドレイピア自身の対策、‘10ペンスの商品に200ペンスの支払いを要求する。’とまで言及し、もし、乞食に正貨半ペンスを与えたならば、上を満たす事が出来るが、ウッズ貨では、ポケットの中のピン3本を与える位の効果しかなく、乞食ですら飢えで破綻してしまう。と強烈な皮肉を投げ、この半ペンスを呪われた物、‘a acursed Thing’ と旧約聖書の警句で、“これに触れるものは疫病のように破滅させられる。”とも警告した。

“the Children of Israel were forbidden to touch. They will run about like the Plague and destroy one who lays his Hands upon them.” Drapier, P: 12

更に、アレゴリーで国王に、銅製の牛の中に国民を入れて、下から熱して苦しめる方法を発明した男の話で、ウッズを暗示し、国王がまずその男を先に牛の中に入れて実験したという寓話で、彼の命運を暗示し、

ウッズ貨はアルランドを滅ぼす以外の何物でもないことを繰り返した。

The Prince put the Projector first into his own Brazen Bull to make the Experiment. This very much resembles the Project of Mr. Wood; and the like of this may possibly be Mr. Wood's Fate: Drapier, p: 12

スイフトは毎日にアイルランドの経済状態が悪化してゆく様を見、其れに対して国民がなんらの対応も出来ず、又、その意欲も見せない様に、日ごろより業を煮やしていた。そんな折、イギリス政府の策謀とも取れる、ウッズによる少額貨幣の鑄造計画が、アイルランド国民の知らないところで推し進められ、その劣悪な品質が、やがてはアイルランド経済を立ち直れない状況に追い込む事を危惧したので、国民的運動として全アイルランド国民を一致団結して、この難局に当たらせようとの想いから、この檄文を発表したものである。

この一文が、国民を動かし、議会にまで、影響力を及ぼし、中央政府まで、この筆者スイフトの存在に危機感を抱いたのであろう、懸賞金300ポンドが懸けられたが、誰も密告するものも無く、国民的英雄として尊崇を得る事となったのである。

本文中にある『ドレイピア書簡』からの引用は、全て The Drapier's Letter's and other works (1724-1725), Prose Writing of Jonathan Swift. Edited by Harbert Davis. Oxford; Basil Blackwell; 1941からのものである。

- 1) Wood. William ( 1671-1730) English ironmaster obtained (1722) patent to coin halfpence and farthings for circulation in Ireland ( Wood's half-pence) , sharing difference between bullion value and nominal value with George 1's mistress, the Dutchess of Kendal.
- 2) Pretension暗示的看過法自分の知識を誇示し、重要事項にさりげなく触れていながら、印象を強める論法。日本語修辞辞典 野内良三著 図書刊行会
- 3) The Draipier's Letters: edited by Herbert Davis Oxford Basil Blackwell:1941. p; 3.
- 4) Brutus Marcus Junius (85-42 bc) Roman politician and conspirator sidede with Pompei against Caesar and was one of Caesar's assassins.
- 5) Julius Caesar:William Shakespeare Penguin Books P:59, 19-23.
- 6) Juliua Caesar ; Penguin Book ; act 3 part 2. p:59, ;19.

- 7) Ilb: p: 61 79.
- 8) Enumeration 明示的列挙法 語句や観念を連続して、畳み掛け暗示する論法。
- 9) Gradation 上昇的斬層法 語や観念を段階的に強める文彩。
- 10) Allusion 引喩 熟知している対象を暗に踏まえながら、話を展開する文彩、ほのめかす点では、ある自称を話題にしなが、それとは別の事象をさりげなく論じている論法。
- 11) Julius Caesar William Shakespear Penguin Books p: 60; 3-2, 89.
- 12) Citation 引用法 権威ある発言に依存して、論証のわずらわしさを回避し、自分の発言に権威と品格を与える文彩 日本語修辞辞典
- 13) the Mirror of Justice;
- 14) Cork, sir Edward (1552-1634) English Julist early prominence at bar; M. P (1589) to disappointment of Francis Bacone in (1598) , speaker of the House of Common (1591) , Attorney General (1594)
- 15) Tyrone 北アイルランドの州都、中心はomagh,

- 17世紀大規模な反政府活動が発生、スペインの援助の下、エリザベス女王に対する反乱であった。
- 16) Davis sir John (1569-1626) , became a solicitor and Attorney-general for Ireland and was appointed Lord chief Justice of the King's Bench

## Bibliographies

- Ehrenpreis Irvin: Swift The man, his works, and The Age Harvard University press Cambridge Massachusets  
 Jefferes Norman Swift Macmillen and Co. Ltd, Bristol Swift Jonathan The Drapie's Letters and other works 1724-1725 ProseWritings of Jonathan Swift Edited by Harbert Davis Oxford; Basil Blackwell; 1941
- Shakespeare: William Julius Caesar editedwith commentary by NormanSanders; Penguin Books
- 日本語修辞辞典 野内良三著 株式会社図書刊行会  
 レトリック辞典 佐藤信夫, 佐々木健一, 松尾大著 大修館書店

## "A Letter to the Shop-Keeper, Tradesmen, Fermers and Common-People of Ireland, Concerning the Brass Half-Pence Coined by Mr. Woods" by M. B. Drapier

Koichi Kojima

### Abstract

On these papers, we deals about Wood's Half-pence and Farthings and how to stand in the way of it's coinage. When Swift come to know the plan, he was evidently convinced that a huge amount of 108,000 pounds of Wood's minting should make the economy of Ireland follen into the great misery. He began to operate national campaign to prevent of it. As Swift well known the personality of Irish being indifference to the others, he happen to create fictitious M. B. Drapier publishing a pamphlet to persuade whole merchants in Ireland. Swift used various kinds of Rhetoric, which was quite different of his usual methods. He explained the merchant the crude quality of coin, and tried to persuade them by showing the demerit, and the economic problem of accepting of Wood's coin.

Keywords: Pretention, Gradaton, Enumeration, M. B. Drapier, Willian Wood